

「当事者参画による”気づき”から”かたち”へ」

～大阪・関西万博 日本館におけるUDワークショップの紹介～



2026年3月

大阪経済大学非常勤講師
見玉 健

CONTENTS

1. 日本館の概要
2. 日本館のUDワークショップの経緯と概要
3. できた事とできなかった事
4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要
5. 日本館UDWSの経験を次に

第22回バリアフリー推進勉強会in関西、2026年3月6日（金）

1. 日本館の概要

1. 日本館の概要

開催概要

テーマ

いのち輝く未来社会のデザイン
Designing Future Society for Our Lives

サブテーマ



コンセプト

- People's Living Lab -

未来社会の実験場

- 1 展示をみるだけでなく、世界80億人がアイデアを交換し、未来社会を「共創」(co-create)。
- 2 万博開催前から、世界中の課題やソリューションを共有できるオンラインプラットフォームを立ち上げ。
- 3 人類共通の課題解決に向け、先端技術など世界の英知を集め、新たなアイデアを創造・発信する場に。



第22回バリアフリー推進勉強会in関西、2026年3月6日（金）

1. 日本館の概要

いのちと、いのちの、あいだに -Between Lives-

テーマコンセプト

来場者は、他者と自分、人と人以外、生物と非生物など、様々ないのちの「あいだ」(境界・差異・関係性)を見つめることで、それぞれのいのちの尊さや、互いに支えあっている存在であることを自覚する。
自分たちが大きな地球の中で生きていることに気づき、他のいのちと共創しながら大きな循環を生み出す大切さを学ぶ。こうした一連の体験を経て、SDGsに代表される社会課題を自分たちのこととして咀嚼し、未来社会のつくり手としての行動変容を促す。

1 大阪・関西万博テーマの具現化

日本館は大阪・関西万博の顔であり、大阪・関西万博の掲げるテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を、ホスト国政府としてプレゼンテーションする拠点となる。(抜粋)

2 日本の取り組みの発信

今後世界に貢献しうる日本の先端技術等の展示・体験を組み入れる。(抜粋)

3 次世代・多様な主体による参画機会の確保

これまでの国際博覧会において、新たな才能を育成するための挑戦の機会が確保されてきたことをふまえ、日本館のクリエイションにおいても、若い世代のクリエイター等の参加を積極的に推進する。また、子どもたちの社会教育の場として、子どもたちの参加・体験を重視する。

さらに、日本館のコンセプトに共感した者が自ら日本館の発信を行うなど、多様な主体を巻き込むとともに、ダイバーシティに配慮した運営を推進する。

4 国際的相互理解の促進

日本館は、各国の首脳やVIPをもてなすホスト国政府館としての外交上の役割を持つことから、先進国・途上国を含めた参加各国や国際機関との相互理解促進の観点も考慮する。

多様な来場者の共感を得る観点から、どのような文化的背景や知識をもつ来場者にとっても親しみやすく、理解しやすい展示体験を追求する。

注) 日本政府出展事業(日本館)基本計画より作成

1. 日本館の概要

日本館の外観



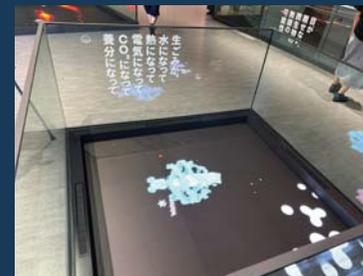
1. 日本館の概要

展示ゾーンの一部



1. 日本館の概要

展示物の一部



2. 日本館のUDワークショップの経緯と概要

2. 日本館のUDワークショップの経緯と概要

施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン【改定版】（民間パビリオン用）

更新日：2022年6月30日



●ガイドラインの目的など(博覧会協会HPより)

すべての来場者にとって、より利用しやすい博覧会会場を実現するため、障がい当事者（身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がい等）や学識経験者等の意見を伺う検討会を開催するとともに、Tokyo2020 アクセシビリティガイドライン等昨今の事例を参考に、ユニバーサルデザインガイドラインの改定を検討してきました。このたび、そうした議論や知見を反映し改定を行ったものです。

本改定版は当協会公式 Web サイトに公開します。今後は、改定したユニバーサルデザインガイドラインに沿って、大阪・関西万博会場内の施設整備を進めていきます。

(上記は、博覧会協会HPより) 大阪・関西万博ユニバーサルデザインガイドラインの改定について | EXPO 2025 大阪・関西万博公式Webサイト

2. 日本館のUDワークショップの経緯と概要

● 日本館のUDWS立ち上げから開幕まで



● 主要なパビリオンにおいて当事者参画型の検討を行うことが決められる。
(主要なパビリオン)：日本館、大阪ヘルスパビリオン、催事場、会場全体、

・設計発注時にUDWSに関わる仕様が示され、それに基づきUDWSが開始される。

・施工監理発注時にUDWSに関わる仕様が示され、それに基づきUDWSが開始される。



2. 日本館のUDワークショップの経緯と概要

● 全体スケジュール

- ・日本館のUDワークショップは、2022年（令和4年）6月から、2025年（令和7年）2月までの間に合計11回開催された。また、ワークショップ欠席者に対して個々にフォローアップ、メール等による意見聴取、設計段階における類似施設の視察、スロープ体験なども実施している。
- ・設計段階では、建物内のUD関連施設に関わる基本的な考え方、配置、採用する施設の要件、具体的な設計内容までを検討し、実施設計内容に反映している。
- ・施工段階では、実施設計内容に即した施工を進めるうえで、2回のモックアップ検証を実施し、障害当事者、高齢者等に原寸大の模型を確認いただき、細部の設計変更、施工上の変更などに反映している。
- ・事後評価として、2025年9月に現地調査などを実施。

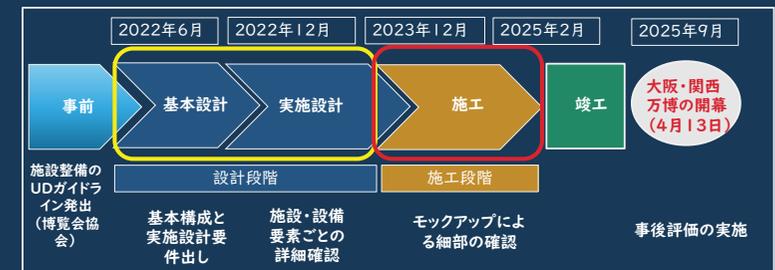


図 UDワークショップの全体経緯

3. できた事とできなかった事

3. できた事とできなかった事

1 できた事の1: 設計の早い時点から意見を聴き、反映

・設計においては、博覧会協会が発出した「施設整備ガイドライン」を順守することを基本としているが、設計に当事者の意見を反映することで、必要性を確認し、より使いやすく質の高い施設の実現ができた。



図 UDワークショップの全体経緯

3. できた事とできなかった事

●設計段階における検討事項

表 基本設計、実施設計の各段階で反映した事項

対象	設計段階	施工段階
建物全体的	・円形回廊等における移動方向、トイレ、展示エリアの配置などの確認	-
スロープ、誘導設備	・スロープの勾配(5%)の設定 ・誘導の基本的考え方 ・円形回廊の雨よけ、日よけの設置 ・視覚障がい者の誘導方法(ラインガイド、レールガイド、手すり) ・円形回廊上の休憩スペース設置	・スロープの勾配(5%)、 床面の材質、色の設計 ・手すり、視覚障がい者の誘導施設(レールガイド、ラインガイド)の詳細
トイレ	・トイレの配置・便房数、器具数 ・機能分散配置の考え方(オールジェンダートイレの設置) ・機能分散の考え方に沿った設備配置 ・授乳室・カムダウンスペース内の仕様・設備	・機能分散の考え方に従ったトイレ内の 設備配置、詳細寸法、仕様 ・授乳室、カムダウンスペースの 設備配置、詳細寸法、仕様 ・フラッシュランプ等の配置・仕様 ・トイレ内の色・デザイン、色のコントラストに配慮した仕様

3. できた事とできなかった事

●UDワークショップにおける意見数

カテゴリー	主な項目	件数	
		設計段階	施工段階
基本的考え方、会場全体的の事項など	・コンセプト、基本的考え方 ・トイレ/サービス施設などの配置運営/案内アプリなどの導入	86	4
建物内外の移動・滞在に係る事項	・休憩場所、踊場、幅員確保、ショートカットなど ・エレベータの導入など ・避難誘導経路・設備 ・視覚障がい者用誘導ブロックなど ・待ち行列への対応	216	53
トイレに係る事項	・器具数、バリアフリースペース数など ・機能分散化、配置など ・トイレの設備等 ・サイン・誘導・標示/運用など	227	44
カムダウンに係る事項	・配置数・位置 ・仕様	30	7
誘導に係る事項	・視覚障がい者の誘導・情報提供 ・サイン・誘導・標示	108	46
その他	・WS運営について など	44	28
	合計	711	182

(資料)国土交通省近畿地方整備局のユニバーサルデザインに関する資料などから作成

3. できた事とできなかった事

●意見と改善事項の例

<スロープ、手すり>

確認事項		主な意見	施工上の改善事項
スロープ・踊場	勾配	登り・下りの負担度合いなど	・勾配(1/20)については問題ない。 変更なし
	床材の材質	すべり具合、通行のスムーズさ	・三和土のざらつきは歩行上の抵抗・負担を感じる。 ・表面の質感の違いは分かりにくい。 通行部分はなめらかな仕上げとする。
		濡れた場合のすべり具合	・濡れた時はグリップが強くなり引っかかる。 (特に踊場のN55粗度A)
床材の色	スロープ部分と踊場の色の違い	・踊り場とスロープの色の差はほぼ分からない。 ・通路部分は明るい色、スロープ部分の上下端は濃い色のラインとして視認できるようにする。	
設置の必要性	誘導設備としての有効性	・手すりがあることで歩く方向を見失わない。 ・手すりは必要である使いやすいことが必要。	有効性が確認できたので設置する。 (変更なし)
	手すりによる移動時の安全性確保など		
手すり	材質	手すりのすべりにくさ	・滑りにくい材質とする。木製の検討も必要。 夏場の暑さ対策も考慮しフィルムシート貼りとする。木製はコスト高、汚れを考慮し採用しなかった。
	形状・設置位置	手すりの太さ・高さ	・径が太い(握りにくい)。 ・位置が少し高いと感じた。高さは80cm程度がよいのではないか。 ・車いすのハンドルと干渉しないよう標準寸法を押さえて高さを決定してほしい。 ・手すりの径を42.7mmから38mmに変更する。 ・高さは85cmから80cmに変更。

(資料) 国土交通省近畿地方整備局のユニバーサルデザインに関する資料などから作成

3. できた事とできなかった事

●事後評価の実施内容

(1) 調査主体

日建設計 インクルーシブ研究チームと東北福祉大学石塚研究室の共同調査(K-町みらい研究所が調査を支援)

(2) 調査方針

① 調査日時

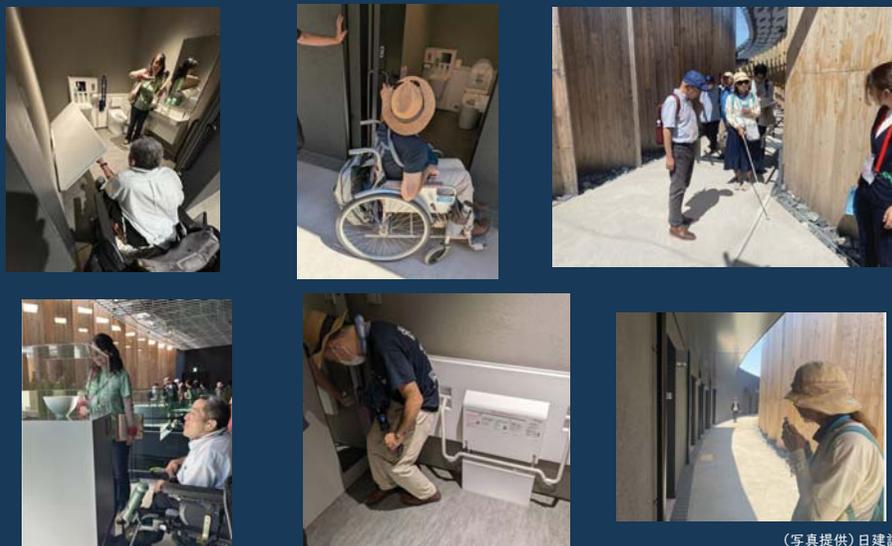
・9月9日(火)、AM,PM:万博会場、大阪HCP、日本館の現地調査
各パビリオンの調査対象施設を体験してもらって、それぞれの評価を行う。
・9月10日(水)、AM:意見交換会
(場所は日建設計大阪事務所会議室)

② 対象とする施設

・大阪・関西万博 日本館、大阪ヘルスケアパビリオン(以下、大阪HCP)
・会場内のUD施設等
・日本館
・敷地内の敷地境界から施設内の外周園路、スロープ、休憩施設 など
・外周園路における誘導設備: レールガイド、ラインガイド、手すり、ナビレンズなど
・トイレ

3. できた事とできなかった事

【調査風景】



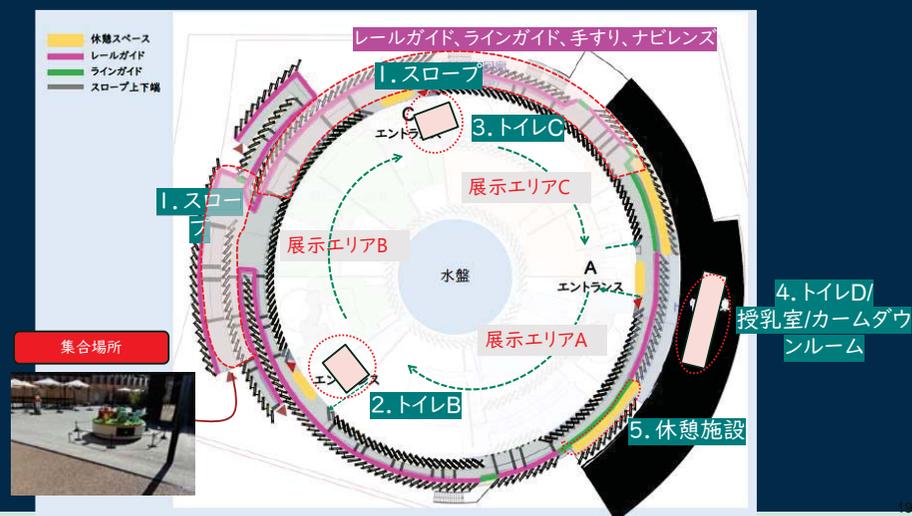
(写真提供) 日建設計

3. できた事とできなかった事

●調査対象施設

<調査のルート>

1. スロープ(レールガイド、ラインガイド、手すり、ナビレンズ) → 展示エリアA → 2. トイレB → 展示エリアB → 3. トイレC → 展示エリアC → 4. トイレD/授乳室/カムダウンルーム → 5. 休憩施設 → 回廊に出て退去



2 できた事2:多様な障がい当事者の意見の反映

・UDWSは約40人の参加により実施することができ、このような多様な障がい当事者参画のUDWSの実施は、国内でも先進的な取組であった。
 ・このようなUDWSにより、それぞれの立場からの意見や、相反する意見を収集でき、さらに、多様な障がい者の意見の調整をすることができた。

	設計段階	施工段階
事務局	国土交通省近畿地方整備局	
学識経験者	7名	3名
車いす使用者	7名	7名
視覚障がい者	4名 (全盲:3名、弱視:1名)	4名 (全盲:3名、弱視:1名)
聴覚障がい者	3名	3名
知的・精神・発達障がい者	5名	3名
LGBTQ	2名	2名
子育て団体代表	2名	2名
合計	30名	24名

(資料) 国土交通省近畿地方整備局のユニバーサルデザインに関する資料などから作成

3 できた事3:モックアップ検証の有効性の確認

・施工段階において、モックアップ検証を行うことで、問題点、有効性を利用者、設計者それぞれが認識することができ、それを施工段階のスケジュールの調整も含めて最後まで義理ぎ口の調整ができた。

<モックアップ>



写真提供: 国土交通省近畿地方整備局管轄部

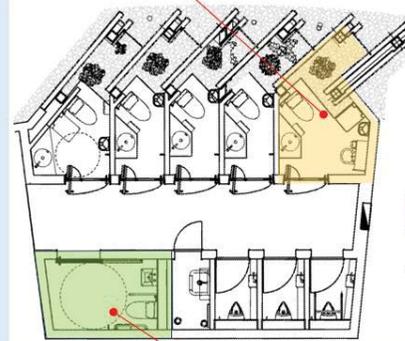
<モックアップ検証の風景>



● トイレの検証例

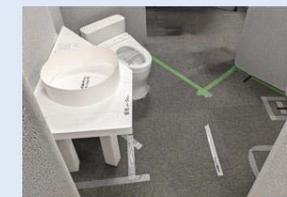
◆ 検証対象トイレブース

(2)ゾーンB 個室型 男女共用便房(日本館特有の不整形)



(3)ゾーンB 個室型 車いす用簡易便房

UD対応状況	ベビーカー対応の広さ、オストメイト対応、ベビーチェア、フィッティングボード	
確認事項	入口から便器までの移動	・便器への移動のしやすさを確認。
設備関係		・紙巻き器やリモコンの位置を確認。



UD対応状況	ベビーカー対応の広さ、簡易車いす対応、手すり	
確認事項	入口から便器までの移動	・便器への移動のしやすさ、移乗のしやすさを確認



3. できた事とできなかった事

● UDワークショップを進めるうえでのツール

日本館のUDワークショップでは、設計図面を視覚障がい者をはじめとした参加者全員に理解してもらうために、次のツールを用意した。

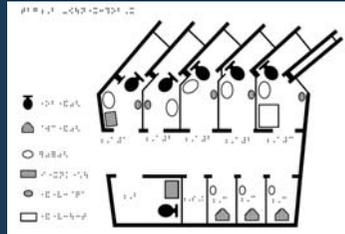
<立体模型>

視覚障がい者の方に建物の形状、通路、建物内の構成を理解してもらうために、模型を用意して触れてもらうようにした。



<立体コピー図面>

設計図面を簡略化した図をもとに日本ライトハウスに依頼し凹凸のある立体コピー図面作成し、説明資料と併せて提供することで、トイレ内の便房の配置、建物の入り口の位置などの説明に用いた。



<聴覚障がい者への配慮>

・資料の読み上げテキストの配布、聴覚障がい者のための会議中の自動文字通訳、手話通訳者の依頼などを行っている。

<知的障がい者等への配慮>

・説明資料でむずかしい表現を使わない、ルビをするなどの配慮
・説明時になるべくゆっくり話す。

3. できた事とできなかった事

4 できた事4: 先進的なUD設計思想の社会実験の場

・外部の回廊への視覚障がい者誘導のための「レールガイド」、「ラインガイド」、「ナビレンズ」、トイレのジェンダーレスタイプの個室設置に代表される先進的な考え方に基づく設備等の設置。
・それらの効果、課題などを検証でき、社会実験の場として日本館を活用し、さらにレベルの高いUDの実現に寄与すると言える。



WSのご意見をもとに施工段階で反映しました。
レールガイド・ラインガイドに沿って歩けば各出入口にアクセスすることができる。

3. できた事とできなかった事

5 できなかった事: ハードとソフトの検討の枠組みと参加型の実現

・日本館UDWSでは、施設のハード面に特化して検討をして参加者からは高い評価となった。一方、ソフト面の検討は残念ながら不十分であった。これは、検討の枠組み・プロセスに課題が残ったと言える。

・施設の空間的・予算的な制約の中で最適な答えを見つけるためには、ハード面とソフト面の最適な組合せを検討当初から検討することが必要であり、これまでどうしてもハード面に偏りがちな検討の枠組みを発注者(事業者)、設計・施工者、当事者で検討する必要がある。

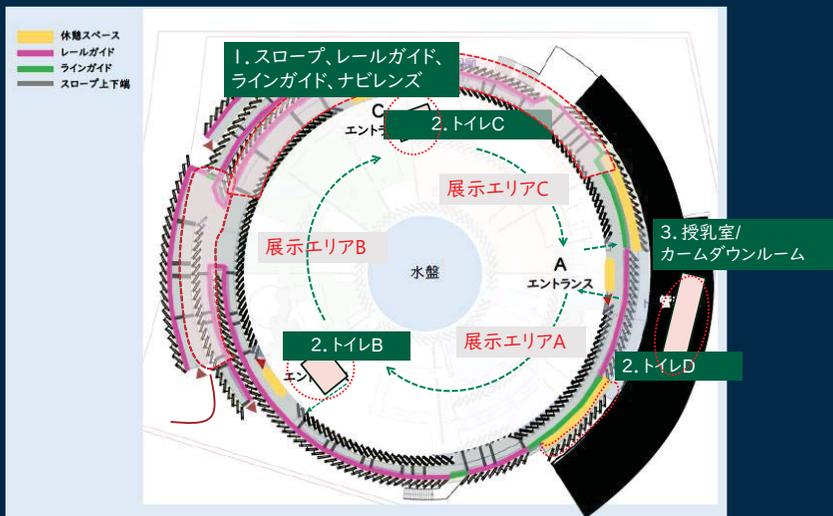


日本館におけるUDIに関するスタッフ研修の様子
(写真: 見玉健)

4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

下図の順番で日本館のUD施設の概要を説明します。



4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

1. スロープ、レールガイド、ラインガイド、ナビレンズ

(1) 施設のUD配慮事項

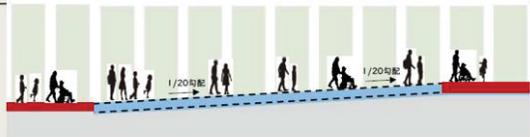


お年寄り・車いす利用者も誰もが使いやすい傾斜路を模索し実践した。

4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

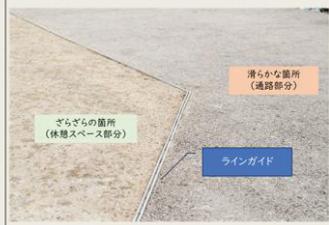
UD配慮事項

多様な人が一緒に同じ空間を快適に移動できるように緩やかなスロープとし、床の材質、色の工夫を行っている



勾配	・スロープの勾配は設計当初から5%を前提として、多様な人が同じように使いやすくしている。
床材	・床材は自然性が高く、リサイクルしやすい三和土（たたき）を採用している。三和土の表面を滑らかにし、車いす、高齢者、片麻痺の人などがつまづかないようにする。
床の色	・設計段階は5%勾配のスロープと踊り場を三和土の表面仕上げで区別。 ・施工段階の検証の結果、表面仕上げの違いではなく、スロープの上下端に濃い色の三和土をライン状に入れることで視認できるようにする。

床材（滑らかな箇所とざらざらの箇所）

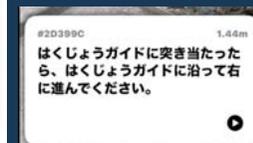
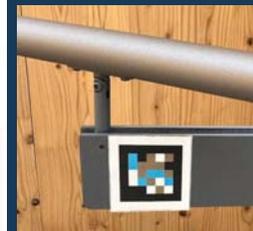
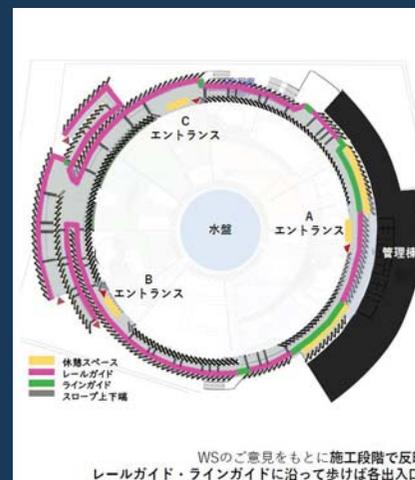


床の色、ライン



4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

●レールガイド、ラインガイド、手すり、ナビレンズ



WSのご意見をもとに施工段階で反映をしました。レールガイド・ラインガイドに沿って歩けば各出入口にアクセスすることができます。

日本館内の手すりのナビレンズの案内事例

4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

(2) 評価結果

1) 対象施設: スロープ、回廊

① 多面的評価

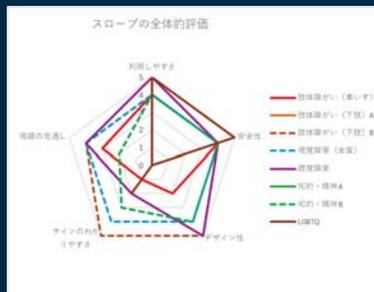
・全体的に高い評価となっており、回廊・スロープの利用しやすさ、安全性、デザイン性などが評価されている。
 ・一方で、車いす利用者、聴覚障がい者の「サインのわかりやすさ」は、評価が低い。

② 項目別評価

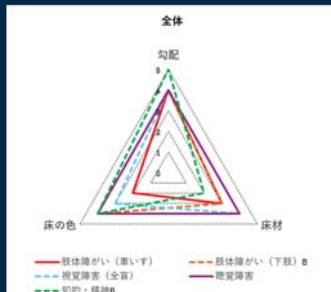
・「勾配」、「床材」、「床の色」のそれぞれに一定の評価となっている。
 ・車いす利用者、知的・精神障がい者は、床材の評価が低く、劣化による凸凹によるつまずきなどの指摘がある。

(注) それぞれの指摘の詳細は、後に記載

<項目別評価点>



(注) 上記の評価点は、それぞれのグラフの線が回答者1名を示していることから、あくまで個人の評価であることに留意する必要があります。



(注) 上記の評価点は、それぞれのグラフの線が回答者1名を示していることから、あくまで個人の評価であることに留意する必要があります。

4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

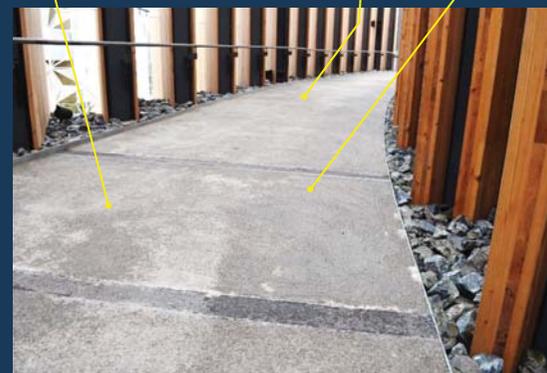
③ ご意見の概要

(良かったこと)
 スロープの「勾配」は評価が高く、5%勾配の効果が実感されていると言える。

(良かったこと)
 2m以上の幅があり、手話通訳士と並行しながら、コミュニケーションにストレスがなかった。

(課題など)
 「床材」に関しては、三和土の床であり、調査当日が開幕して5か月が経過していたこともあり、劣化による凸凹似よるつまずき、がたつく。

(課題など)
 ・サインに関して、歩いていて現在位置がわかりにくいなど。



(写真提供: 見玉)

4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

③ ご意見の概要

(良かったこと)
 レールガイドは問題なく使える、ナビレンスは広い範囲から認識できる。

(課題など)
 ・片方の手でレールガイド、ラインガイド、手すりを白杖でとりながら、もう一方の手でスマホでナビレンスを使うのは難しい。
 ・ナビレンスが開幕前に設置されることになり、手すり、レールガイド、ラインガイドによる誘導機能の連携の検討が不十分である。

【レールガイド、ラインガイド】

【NaviLens】



(課題など)
 ・ナビレンスコードの設置位置・貼り付け方向が、移動動線方向に向いていない箇所もあり、不便である。(下の写真は、トイレ付近の設置の様子である。)

① カームダウンルーム入口のナビレンスコード



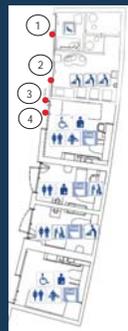
② 授乳室入口のナビレンスコード



③ バリアフリートイレ入口のナビレンスコード



④ 触知図案内板のナビレンスコード



(写真提供: 見玉)

4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

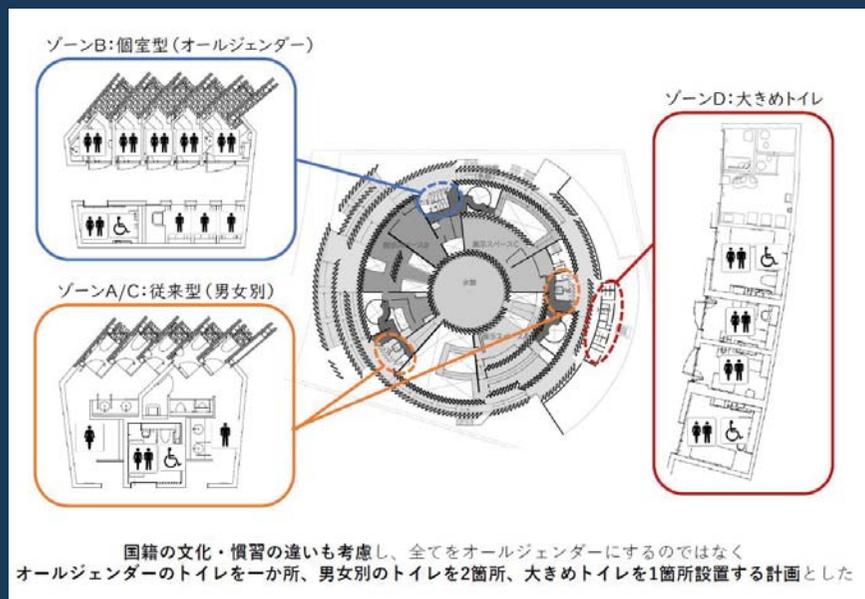
2. トイレ

(1) 施設のUD配慮事項



4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

トイレ全般:トイレの配置と機能分散



第22回バリアフリー推進勉強会in関西、2026年3月6日(金)

4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

●トイレC(個室型トイレ)



第22回バリアフリー推進勉強会in関西、2026年3月6日(金)

37

4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

トイレ全般:トイレの扉(盗撮防止)



盗撮防止の為、ブース下部は手やスマホが入らない20mmの隙間で計画
ブース上部は60mmの隙間で計画

第22回バリアフリー推進勉強会in関西、2026年3月6日(金)

38

4. 完成した日本館のUD関連施設と事後評価結果の概要

トイレ全般:トイレの色彩



男性トイレ(小便器) (トイレA/C)

バリアフリートイレ(トイレA/C)



第22回バリアフリー推進勉強会in関西、2026年3月6日(金)

39

トイレ全般：押しボタンと背後の色とのコントラストの確保

A 背景も高亮とする（既設型トイレ等）
Aタイプイメージ

B 背景をダークグレーとする（個別トイレ等）
Bタイプイメージ

C 一般的な多目的トイレと同じ仕様とする（多目的トイレ等）
Cタイプイメージ

器具は企業協賛品のため、仕様調整は不可。
コントラストを設けられるよう、必要に応じてプレートを設け、コントラストを確保した。

トイレ全般：フラッシュランプの設置

トイレのどこにいてもフラッシュランプの点灯を視認できる位置に設置

フラッシュランプ設置場所

トイレ通路（ゾーンC）

トイレ便房（ゾーンC）

フラッシュランプ点灯の説明文

カムダウン/クール
ダウンルーム

授乳室

この場所には、光の点滅で
火災を警報する光警報装置が
設置されています
Fire alarm system with
flashing light is installed
in this building
火災の発生の際に光が点滅します
Light flashes in case of fire

●バリアフリートイレの扉

軽い力で開けやすく、全開時ストッパーや補助手すりで使いやすい利用者等が操作しやすい扉としている。

バリアフリートイレ（ゾーンA）の扉

補助手すり

鍵の形状（上）：サムターン

鍵の形状（下）：鍵形

●バリアフリートイレ内の設備（フック、鏡）

- ・フックは、視覚障がい者もその場所がわかりやすいように、出入口扉のブース内側に統一して設置。また、安全に配慮した形状としている。
- ・バリアフリートイレ、大きめトイレには扉の内側に鏡を設置。

フック設置位置

フックの形状
（上部：先が円筒状のゴム）

出入口の扉に取り付けた鏡
（ゾーンD：バリアフリートイレ）

フックの形状（下部）

170cm

100cm

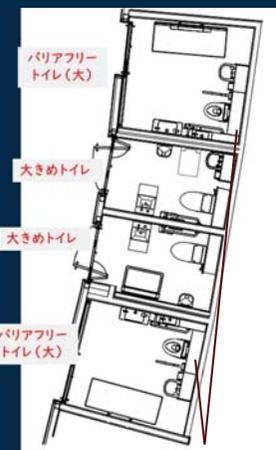
●洗面台の手すり

カウンター上に置くベッセル式の手洗いは、体が不自由な方から体重を預ける場所がなく、手が洗いにくいというご意見があった。手摺位置を調整することで使いやすくなることを確認した。

「角が危ない。」というご意見から扉からの便器への経路に合わせ角をなくすデザインに変更した。

●トイレD

バリアフリートイレ(大)



・バリアフリートイレ(大)には、跳ね上げ式を設置
・大型ベッドを開いた状態でも可能な限り有効幅が確保できるようレイアウト調整を行っている。

大きめトイレ(ベビーベッド設置(写真は開いた状態))



・左右対称の便器、手すりを設置し、左麻痺、右麻痺の人に対応可能としている。

(2) 評価結果

① 多面的評価

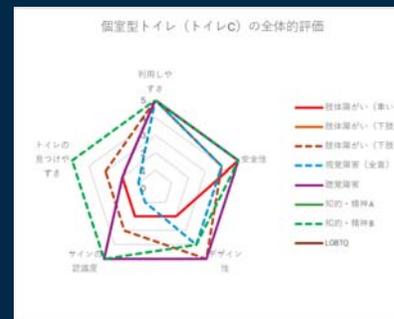
・「利用しやすさ」、「安全性」、「デザイン性」の評価は高い一方で「トイレの見つけやすさ」、「サインの認識度」については、車いす利用者、視覚障がい者で評価が低い。

②項目別評価

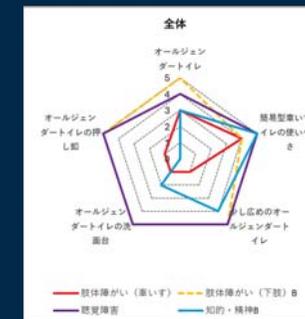
・「オールジェンダートイレ」、「簡易型車いすトイレの使いやすさ」などの評価は高い。
・オールジェンダートイレは、当事者(LGBTQ)の方からは高評価である。
・一方、扉の開閉、壁の仕上げ、空き状況の認知しにくいなどの指摘がある。

注)それぞれの指摘の詳細は、後に記載

<項目別評価点>



注)上記の評価点は、それぞれのグラフの線が回答者1名を示していることから、あくまで個人の評価であることに留意する必要がある。



注)上記の評価点は、それぞれのグラフの線が回答者1名を示していることから、あくまで個人の評価であることに留意する必要がある。

③ ご意見の概要

(良かったこと)
・トイレの洗面・ボタンのトイレペーパーが一体になっており、空間の確保に非常によい。

(課題など)
・小使用個室のドアの内側に小便器があると思わないので、手探りで触ってしまふことを切実に懸念する。入口に、明確な音声案内が必要

(良かったこと)
・オールジェンダートイレがあることは良い。利用しやすい。

(課題など)
・扉の明け始めは軽いですが、開ききるとは可動域が限られている人には扱いづらい。
・男の人が女の人か、誰が入っているか、後ろから入る人にとっては躊躇しやすい。

●トイレ(個室型トイレ)



3. 授乳室/カームダウン・クールダウンルーム

●授乳室

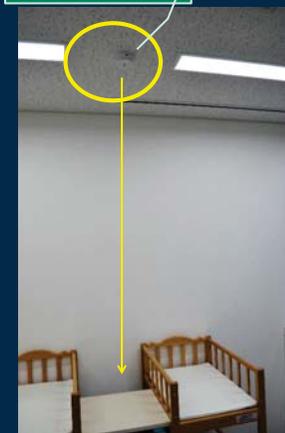
(1) 施設のUD配慮事項



奥の授乳スペース
(出入口は鍵がかけられる
アコーディオンカーテン)



フラッシュランプ



フラッシュランプをベッド位置からずらして設置(幼児の目に直接光が当たらないようにしている)

③ ご意見の概要

(良かったこと)
・奥の授乳室について、広めの授乳ブースがあるのは良い。同伴の子供などが座れる椅子も置くのが良い

(課題など)
・テーブルが角ばったタイプなので危険
・おむつ台は、高さが低いタイプも併設されると良い
・おむつ用ゴミ箱が、足踏み式なので不便なものもある。

(良かったこと)
・トイレ、授乳室、カームダウンの並びの平面配置がシンプルでわかりやすいので、ナビレンスの説明もわかりやすい。

(課題など)
・男女共用であることが、サインで伝わらない

(課題など)
・入口のナビレンスは触知図内容のみで、授乳室内部の配置や男女共用の案内がない。
・特に、何がわかるかわかるように、授乳室設備の説明が必要(給湯・給水、ベビーベッド3台、アコーディオンカーテン付き授乳室、ソファ等)

●授乳室



●授乳室のサイン



●カームダウン・クールダウンルーム

(1) 施設のUD配慮事項

出入口付近



内装



部屋の明かりを暗くした場合



人混み、音や光等、環境の状況によって不安や恐怖等を感じ、パニックを起こしやすい人たちが、安心して日本館を楽しむために、カームダウン・クールダウンルームを設置している。整備においては、当事者意見を反映して以下に示す仕様としている。

- ・柔らかいクッション材を採用。色はウォーム系の薄いグレーとする。
- ・部屋の利用者が調光可能な照明を設置。

③ ご意見の概要

(良かったこと)
 ・横になれる大きさのソファがあるのは良い。高さも良い(移乗しやすい)
 ・同伴者用の椅子や1人用ソファがあるのは良い。

(課題など)
 ・角ばった台があり、危ない

(課題など)
 ・調光はできるが調色ができない。暖色が良い場合がある。
 ・色調(白と暖色)の調整ができない。暖色だと落ち着けるケースも多いと思う。

(課題など)
 ・ソファの横にクッション材がついてない。立ち上がりにつらいたら後頭部を打ちそう。自傷傾向や衝動性がある場合、ストレスを逃がすために頭を打ち付けたい。

●カームダウン・クールダウンルーム

出入口付近

内装

部屋の明かりを暗くした場合



人混み、音や光等、環境の状況によって不安や過剰等を感じ、パニックを起こしやすい人たちが、安心して日本館を楽しむために、カームダウン・クールダウンルームを設置している。整備においては、当事者意見を反映して以下に示す仕様としている。
 ・柔らかいクッション材を採用。色はウォーム系の薄いグレーとする。
 ・部屋の利用者が調光可能な照明を設置。

(4) 運営等における評価

運営等における評価は、現地調査時には調査対象とせずに、調査を行った人がそれまでに万博会場、日本館を訪れた際に気が付いた事項、2025年9月10日の意見交換時の意見、その後に個別にヒアリング事項などを取りまとめている。

1) 日本館について

●日本館の展示スペースに対する意見

・展示物などの位置が高く、車いす使用者から見づらいなどの**展示物の高さ、配置などへの配慮の必要性**。(車いす使用者)
 ・全体的に暗いので他の人にぶつからないか注意を払う必要があったなど、**展示スペース内の明るさへの指摘**。(知的・精神障がい者)

●日本館の運営面等に関する意見

・トイレD、授乳室、カームダウンルームのエリアが「関係者以外立ち入り禁止」になっているなど、**UD施設として整備されている場所が自由に使えない**などの指摘。(知的・精神障がい者)
 ・ナビレンスが通路の片側に設置されているが、展示エリアの入り口の**待ち並びがその逆に誘導され、視覚障がい者がナビレンスを使えていなかった**。(視覚障がい者、聴覚障がい者)
 ・館内の移動中にスタッフに質問したが、**スタッフの聴覚障がい者に対する研修不足で、コミュニケーションが取れない場面があった**。(聴覚障がい者)
 ・手話通訳者と聴覚障がい者が並行して移動する際に、横並びに移動する必要性を**スタッフが理解できずに注意される場面**などがあった。(聴覚障がい者)

2) 万博会場全体について

●万博を経験した全体的な感想

・万博に“来てよかった”との評価は高く、パビリオンのスタッフの対応も暖かったとの意見が多かった。
 ・重度障がいの児童のご家族からは、“**重症心身障がい者にとって初めてのものであり、本当に画期的です**。などの意見があった。

●運営等に関する意見(課題)

・UDに関するハード面の議論はできたが、それが**運用時においてうまく機能していない**。(車いす使用者)
 (例) 飲食スペースの車いすスペース確保、椅子の形状などUDガイドラインが守られていない例があるなど
 ・大阪ヘルスケアパビリオンのスタッフの対応が優れていた。(知的・精神障がい者)
 ・パビリオン内の展示で、**字幕がない、英語のみ、小さすぎる、表示位置が下や端で見えない**、などの問題があり、**内容が理解できなかった**。(聴覚障がい者)
 ・パビリオンによっては**手話対応がない**、先進の音声認識アプリなどが用意されていたが、それらに対する**スタッフの熟練度の不足**などがあった。(聴覚障がい者)

●今後の課題(まとめ)

- ①ハード面とソフト面の一体的なUD配慮を進めるための実施体制の構築
- ②UDIに関するスタッフ研究のマニュアル作成、実地研修への当事者参画の実施
- ③新たな施設の運用方法などの新たなルールの検討
 ※カームダウン/クールダウンルーム、ShiKai、ナビレンズなどの設備の運用ルールなど

5. 日本館UDWSの経験を次に

5. 日本館UDWSの経験を次に

●UDワークショップはこうあるべき:基本理念



- 1 より質の高い施設、まちの実現のための多様な人の参加
- 2 安心して楽しめる場を関係者が同じ目線で高い志をもって実現する
- 3 計画・設計・施工・事後の継続した対話とプロセス構築
- 4 ハードとソフトの柔軟な組合せの仕掛け
- 5 スパイラルアップにつなぐためのノウハウの蓄積

5. 日本館UDWSの経験を次に

- 1 より質の高い施設、まちの実現のための多様な人の参加
- 2 安心して楽しめる場を関係者が同じ目線で高い志をもって実現する
- 3 計画・設計・施工・事後の継続した対話とプロセス構築

多様な人の多様な困りごとを理解、デザインに昇華することで誰もが使いやすい質の高い施設、まちが実現します。そのために、それぞれ人は困りごとを理解している「専門家」です。それらの当事者との対話を重視するプロセスへの転換が必要となります。

博覧会等のイベントだけでなく、街中へのお出かけにおいても“楽しむ”ことは重要な要素であり、そのためには、誰もが安心して出かけられる設備、ソフト面での配慮に視点をいたした検討が必要となります。

日本館のように継続したUDWSにおける検討は、他の施設でも参考となると言えます。一方で、通常、建築・まちづくりは、企画・基本構想⇒基本計画(設計)⇒実施設計⇒施工⇒竣工後の評価 の段階によって進められます。各段階でどのように意見を取り入れていくか、当事者参画プログラムそのものを設計していく発想が重要になります。



出典: 日建設計HP
<https://note.com/nikken/n/n82f675177106>

5. 日本館UDWSの経験を次に

- 4 ハードとソフトの柔軟な組合せの仕掛け
- 5 スパイラルアップにつなぐためのノウハウの蓄積

施設の空間的・予算的な制約の中で最適な答えを見つけるためには、ハード面とソフト面の最適な組合せを、検討当初から検討することが必要であり、これまでどうしてもハード面に偏りがちな検討の枠組みを発注者(事業者)、設計・施工者、当事者で検討する必要があります。

UDIに関する検討はこれまでも全国で実施されています。また今後もさらに広がるのが予想されますが、それぞれが真に必要な検討をすすめるため、スパイラルアップを全国で進めることが必要となります。そのために、国内で検討されるUDワークショップの知見を蓄積し、継続して次につなげる工夫が必要となります。

また、UDワークショップを企画・実施する際の参加者情報の取得しやすさ、人材へのアクセスしやすさ、人材の育成に関わる検討も必要となります。



日本館におけるスタッフ研修の様子
(写真: 見玉健)

ご清聴ありがとうございました。



出典: <https://www.expo2025.or.jp/>